



日本鳥学会2009年度大会自由集会
和文論文をスムーズに掲載する方法

**初学者だった立場から
—投稿者として良かったこと・困ったこと**

堀江玲子(NPO法人才オタカ保護基金)



論文完成→投稿すると・・・

「はじめに」から「考察」まで書き上げて、
書式を整え、誤字脱字を修正



いよいよ投稿

あ～これで一安心



すると忘れた頃に査読結果がやってくる...
そして始まる修正の日々

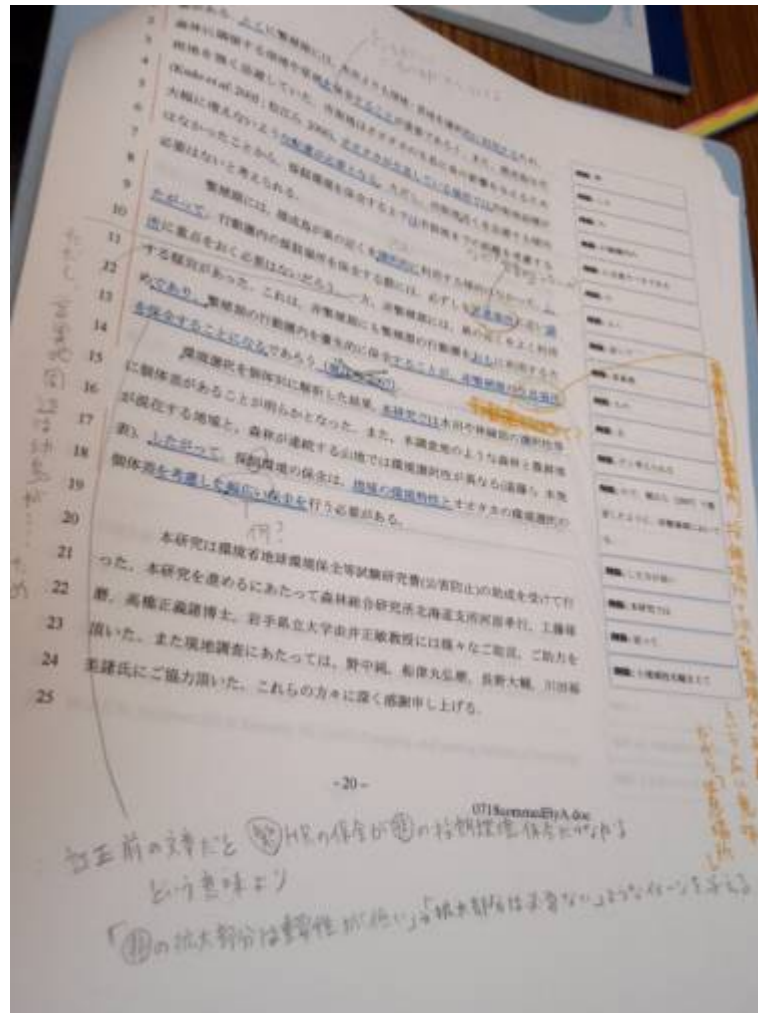
査読のある学会誌に投稿して よかったこと

第3者に読んでもらうことによって
論文の内容が向上する

- 研究内容をわかりすぎているため、
説明不足になることがある
- 何度も読み直しているうちに、
わかりづらい表現に慣れてしまう
- そもそも間違いに気付いていない

査読により改善

査読のある学会誌に投稿して よかったこと（個人的に）



文章を書くことの
良い勉強になった



困ったこと

査読後の修正のやり方に慣れていなかった

- ・指摘部分を修正するためには、あちらの文章も直さなくては...と修正が広範囲に



共著者に注意され、指摘部分のみ修正

査読者の意見に反論してもよいのか不安だった

- ・修正された部分が自分の言いたい事と違っている場合
- ・査読者からの修正方法が、できない、または必要ないと考えた場合など

困ったこと(これは注意不足ですが...)

修正のルールをわかっていなかった

- ・指摘されていない部分を変更してしまった

↳ 共著者に注意され変更部分を削除



投稿の手引きをよく読めばよかった



査読を乗り越えるには

投稿前には

投稿の手引きをよく読む

- ・書式や図表の書き方、査読後の対応などが書いてある

査読結果に悩んだ時には

投稿経験豊富な人にアドバイスをもらう

- ・身近に相談できる人がいない場合には「論文作成相談室」に相談できるようです



査読を乗り越えるには

さらに

投稿初心者は、編集者がきめ細かく対応してくれると、最後まで頑張れる

- 投稿の手引きには書いていない書き方の指導
- 修正について質問に答えてくれる
- 査読者の意見についての補足 など

最後に

自分の論文が雑誌に載る日を夢見て頑張る